

平成22年10月 7日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について
(お知らせ)

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の後片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

10月4日10時02分、原子炉機器輸送ケーシングによる原子炉容器から炉内中継装置の引抜き作業を開始いたしましたが、引抜きのためのグリッパの降下中、10時22分、現場操作盤において「荷重超過」の警報（ノイズによるグリッパ荷重の指示値の減少）が発生したことから、作業を中断しています。

これまでのノイズに係る調査において、グリッパのワイヤーに設置している2つの荷重計（A、B）は正常値を示していたが、0.1秒毎にそれぞれの荷重加算演算処理している合計の荷重信号（A+B）にグリッパの昇降モータの電源部からのノイズが影響したものと推定しています。

この対策として、今回のようなノイズに対して、警報を発報せず処理するように演算プログラムを変更します。具体的には、影響を受けた荷重信号は連続して発生していないことを確認したことから、荷重信号（A+B）が警報の設定値を上回った状態で、0.3秒を超えて継続する場合に警報を発報させるようにします。

この対策処置を実施した後、原子炉機器輸送ケーシンググリッパの昇降動作による検証を実施し、来週初めにも炉内中継装置の引抜き作業に着手する予定です。

以上